

「水の神さま」の調査と市民への発信

公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

1 はじめに

みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) は、緑や水、食など地域の自然環境やくらしに関する調査研究を行い、広く県民に対し地域と地球環境に関する学習・活動の場を提供している公益財団法人である。そのなかで水部会は、私たちの日々の生活に欠かすことのできない水に関する様々なテーマに取り組んでいる。活動メンバーは年によって異なるが10人前後である。

広瀬川の源流から下流までの水質調査活動、親子を対象に「軟水・硬水の水の飲み比べ」ブースの出展、「水辺の野鳥観察会」などの活動とともに、河川行政への提言活動なども行っている。

その活動の大きな柱として2008年以降宮城県内にある「水の神さま」を調査しその内容を市民に発信し、地域の人々と市民との交流を促す活動を行ってきた。

2 水の神さまとは

現代では、水道の蛇口をひねればすぐに豊富な水が得られ、生活の中に水があることは当たり前である。しかし、昔の人は水の大切さや恐ろしさを実感し、地域で「水の神さま」を祀り敬ってきた。「水の神さま」には、「水神」「雷神」「龍神」「湯神」「井戸神」「お不動さん」「弁天さん」等々が含まれ、神道系、仏教系、在来信仰を問わず水に関して祀られてきたものは「水の神さま」として



井戸神（鷺倉山の頂上、民家でも一般的だった）



水神碑



蒲町雷神社絵馬（武者が龍を押さえつけている）



石巻市大島神社（別名 住吉神社、延喜式内社）

取り扱った。

水と私たちの暮らしとの関わりは様々で、その場面場面で水の神さまが存在する。飲み水として清潔な水をねがって井戸の神様、湧き水が豊富で枯れないように蛇王権現、清潔な水で眼病治療あるいは眼病予防、伝

染病予防の不動明王、豊作に欠かせない豊富な水の分配に水分神、降雨・止め雨の龍神、航海・漁の安全祈願に八大龍王など。とりわけ日本は稲作地帯なので、灌漑用水に関する神さまが多く、川をせき止めて取水する堰には必ずといってよいほど水神碑は建立されている。

また、昔は洪水が頻繁に発生していたので、洪水の防除を祈願したものもあった。

その「水の神さま」の形は小さなものは「石碑」から、大きな鳥居、小さな祠、広大な敷地と神殿を備えた神社など様々である。

3 調査の仮説と目的

(1) 「水の神さま」が開発や世代交代などによって消え去り、地域の歴史や人々の水への畏敬の思いが後世に伝わらないのではないかな。

(2) 「水の神さま」についての言い伝えや歴史をその地域の人々から聞き取り調査し発信することにより、地域の水文化、水の大切さを伝えることができるのではないかな。

(3) こうした調査・発信の活動や市民との交流を作ることが地域の伝承や文化の維持に取り組んでいる方々を励ますのではないかな。

4 調査の方法と調査項目

(1) 調査の方法

地図や流域の観察等を通してリストアップした「水の神さま」の現地に飛び込み訪問して、近隣の方々に聞き取るということを主とし、大きな神社は宮司、総代組織などを宮城県神社庁webサイトや市町村関係の役所などに問い合わせして探し出し、お話を聞いた。

(2) 調査項目

①「水の神さま」の名前 ②所在地 ③水系 ④周囲の様子 ⑤言い伝え ⑥その他（縁起、見所、出かける際の注意、情報提供元など）とした。⑦2011年の東日本大震災以降は震災による被害とコミュニティーの変化、被害を受けた「水の神さま」については再建活動の状況などを付け加えて調査した。

(3) 調査における「守人」の発見

調査において重視したことは、場所や景観等だけではなく、「水の神さま」の地域の人々との関わりである。「水の神さまを先祖代々守ってきた守人がいるはずである」という仮説のもと、(1)とも関連するが、非効率ではあるが現地での飛び込み調査を重視して、お話を聞ける

人を探した。

5 8年間の活動の振り返り

(1) 初期の活動（2008年から2010年の前半）

「水の神さま」を探せプロジェクトを組み、仙台市内を5つの区ごとに手分けして調査した。情報が限られていたのでホームページで市民に情報提供を呼びかけた。この調査の結果をまとめ、27カ所の水の神さまを掲載したマップを作成した。ホームページでは、各地点での調査内容と写真の詳細を掲載し、また簡略版パンフレットを作成し、文化施設約80ヶ所、仙台市内の環境団体18ヶ所、仙台市内小中学校199ヶ所に配布した。ホームページ掲載はその後追加されて34カ所になっている。

初期の活動は堰等の水利施設に付随して建てられている「水神碑」や比較的に付きやすい「不動尊」などの調査が多かった。

「不動尊」は仏教の仏さまであるが、滝などの谷筋のきれいな水流のところに建立され雨乞いの場になったり、腹痛の時にその水を飲むと治るなどの言い伝えがあることから、「水の神さま」として扱った。



「水の神さま」を探せ！プロジェクト パンフレット



HP「水の神さま」を探せトップページ



山間の滝の下にある不動尊

(2) 第2期の活動 (2010年後半～2012年)

この間に東日本大震災が2011年3月に発生した。水部会としては2つのことを考える必要があった。

① 一つ目はホームページに掲載した「水の神さま」たちの状況の確認と市民がそこに安全に行くことができるかどうかのチェックで、結果は追加調査として掲載した。



近くまで津波が来て有名になった浪分神社 (若林区)

② 二つ目は2011年度の活動として計画していた「江合川の調査と教材作り」を実施するか否かということだった。この活動はMELON水部会が事務局を務め、現地大崎市のNPO、市民のみなさんとプロジェクトを組み行った。江合川は、宮城県西北端鬼首盆地に源を発して大崎平野の南端で北上川に合流する全長80kmの一級河川で、源流から河口まで「水の神さま」を通して水文化を見ようとしたものである。この震災では江合川筋も大きな被害を受け、「水の神さま」調査活動が現地の住民の方々に感情的に受け入れてもらえるだろうかということが課題だった。幸いにも、現地でプロジェク



荒浜の八大竜王碑 (震災前2009年)



町内会長より震災時の神社被害と対応について伺う



荒浜の八大竜王碑 (震災後2016年7月)



大崎市古川三丁目堰水神碑他



堰守さんのお話を聞く

トに協力を戴くお話しをしていた皆さまの判断は「大変だが実行した方がよい」というものだった。

米どころ大崎平野を支える江合川の源流から河口までの「水の神さま」を通して、流域の水文化を調査し、「江合川 水ものがたり」としてDVD教材にまとめ頒布した。撮影やDVD編集などはすべて素人が行ったもので、出来栄はともかくとしてユニークなものであった。

(3) 第3期活動 (2013年～2014年)

この時期は冊子「沿岸地域の「水の神さま」が繋ぐ水と人の歴史文化伝承」を作成した。



東日本大震災の津波により、宮城県沿岸部の住宅・農地・施設は大きな被害を受けかつての姿は失われた。神社や石碑も例外ではなく、これらは古より人々が言い伝えてきた地域の文化や歴史を後世に伝える貴重なシンボルでもあった。

現在、住居を内陸の高台に移動し、沿岸部は防潮堤を築造し、公園にするなど復興事業に取り組んでいる。住民が移転した場合、かつての地で形成されていたコミュニティや祭事などは失われ、語り継がれてきた地



南三陸町荒島神社の登り口、鳥居・足場が津波に流され修復後に調査 (2014年)

域の歴史や文化も失われる恐れがある。このままでは地域の貴重な文化遺産の一つともいえる「水の神さま」は忘れ去られ、先人の貴重な教訓すら葬り去られることになるという問題意識で沿岸部に調査の重点を置いた。宮城県沿岸部のうち、これまでの活動でネットワークを有する仙台湾岸を対象として行った活動だった。

(4) 現在の活動 (2015年～2016年)

①「引き継ぐ『水への想い』～地域文化の継承を考える交流会～」の開催

これまでの「水の神さま」調査を通して、地域における水文化の継承がされている地域とまもなく途絶えてしまうことが危惧される地域があることが分かった。



案内の後藤一磨氏（交流会にも来ていただいた）



2015年12月12日 地域文化の継承を考える交流会

その両方の地域で水文化の継承に取り組んでいる方々に集まってもらい情報交換をする場を設け、水文化の継承へのヒントを模索した。

②「北上川の「水の神さま」の伝承と文化にふれるバスツアー」の開催

今年の1月22日に、これまで調査した「水の神さま」のなかから、特に震災による津波の被害を受けた石巻市沿岸部の「水の神さま」見学と北上川河口のヨシ刈り体験を通し、地域の人々の水の神さまや復興に対する想いをうかがう市民対象のバスツアーを開催した。大規模な復興事業の陰に隠れ一般市民には目立たない存在だが、地域復興のシンボルとして「水の神さま」の再建に取り組んでいる地元の方々もあり、この訪問がこれらの人々を励ますことになった。



りあすの森より葦原復活と葦刈りの指導受ける



北上川河口部に位置する釣石神社。拝殿は周囲の人家とともに流失し集落の人は高台移転しているが、2016年6月に元の場所に社務所と祈祷殿を再建した。

6 活動の結果わかったこと

(1) 東日本大震災は水の神さま喪失の過程に拍車をかけていることが分かった。

都市部においては震災前にも住宅開発に伴い転々と所在を変えているものや、過去には雨乞いの場所であったところが水が流れていないものなどが散見されてい

た。震災により沿岸部では、物理的に破壊され再建の見通しのつかないものもあった。

(2) 「水の神さま」は「祀り・祭」を中心に維持されることから地域コミュニティにおける「拠り所」としての役割を有しており、災害からの復興のシンボリック役割として再建に取り組んでいるところもあった。

(3) 地域の伝承に誇りを持ち、調べ、記録して、次世代への伝承に注力している人が多くの水の神さまの周辺にいることも分かった。先祖代々守ってきた「守人」や近所の住民からの聞き取りを行うことにより、「水の神さま」と地域の人々との関わりを知りまとめることができた。

(4) 地域の中心となる神社には「水の神さま」に限らず洪水防除、海難防除等の願いが託され、水の神さまにも家内安全、交通安全などの地域の生業とかかわる様々な願い事が持ち込まれている。神社もそうした地域住民の変化に積極的に対応している。

7 まとめ

(1) 「水の神さま」を切り口に調査活動を行うなかで、コミュニティ復興の象徴となっている神社やそれに伴う祭りの重要性に気付かされた。こうした地域で水文化の継承に取り組んでいる方々と都市部の市民との交流の場となる交流会や見学会は、それ自体が地域で復興に取り組んでいる方々を励ますことになった。このような取り組みを広げることで被災地域の活性化につながる事が期待できる。

(2) 調査対象とした地域の多くは、震災以前から過疎化が進行しており、地域の歴史や伝承の継承者をどう確保していくかが課題となっている地域である。震災後住民や氏子に移転したなかで、どのようにコミュニティの再建を図るかという困難に直面している地域でもある。これらの課題の解決に向けて、「水の神さま」に関連して水文化の継承に取り組んでいる方々に集まっていただくことも重要であり今後の課題である。

(3) これまで、仙台市内、大崎市、仙台湾沿岸部と調査の対象地域を広げてきたが、宮城県南部内陸部、宮城県北部と未調査のところもあり、地域住民の方々と協力して調査域を広げることも課題として残っている。